

曹洞宗中国管区

教化センターだより

人びとの声に心耳を澄まし、社会とともに歩む



発行所 曹洞宗中国管区教化（禅）センター

〒683-0802 鳥取県米子市東福原 1-1-22 ウエストビル 402 号室

TEL:0859-31-5161 FAX:0859-31-5163

HP <http://kyouka-chugoku.com>

印刷 / 富士印刷㈱
TEL.0859-72-0315



令和六年（二〇二四）年度 布教教化に関する告諭

曹洞宗管長 南澤道人

今、世界が抱える諸問題は、複合的かつ重層的で、基本的な人権としての平和な暮らしや命の尊厳が脅かされる危機的な状況は、広がる一方と言っても過言ではありません。

一仏兩祖を信奉する私たちは、確かな道を知っていなければならぬので

お釈迦さまは縁起の理法をさとられ、一切を正しく観察される智慧と、他者との和合調和は慈悲によつて成ることを、身を以てお示しくださいました。それは、我利・我欲を離れる私たちの生き方だったのです。

道元禪師は「回光返照の退歩を学すべし」とお示しです。

歩みを止め、息を調え、二歩も三歩も退いて、自らが行いを仏道に照らし謙虚に顧みよ、と説いておられます。

瑩山禪師は「必ず和合和睦の思いを生ずべし」と示されました。

和合調和を乱すのは、何時の世も人間の我利・我欲、すなわち貪りであり、その貪りこそが苦悩の源であり、対立闘争の根源なのです。

無常無我の世なればこそ、日月は私無く一切を照らしております。私たちも、至心に万事万縁と関わってゆきたいものです。

合掌は、御仏に自らを重ね合わせることで、御仏をこの身に頂く坐禅に親しみ、世界中の人びとが誰一人取り残されることなく、安らかに暮らせるよう、祈り、念じ、共どもに菩薩行を進めてまいりましょう。菩薩の誓願に生きることが、苦悩の世を安楽の世にする真の道であります。

大本山總持寺開山太祖瑩山紹瑾禪師七〇〇回大遠忌法要をご縁として、和合のみ心を我が心、和合のみ教えを我が行いとして、太祖さまに見えようではありませんか。

合掌

南無釈迦牟尼仏
南無高祖承陽大師道元禪師
南無太祖常済大師瑩山禪師

令和六年度 布教教化方針

曹洞宗の布教教化は、人びとが一仏兩祖のみ教えを実践することで、深い喜びと安らぎを得ることを願い、その実現を目指します。

本年度の布教教化方針は、布教教化に関する告諭の「世界中の人びとが誰一人取り残されることなく、安らかに暮らせるよう、祈り、念じ、共どもに菩薩行を進めてまいりましょう」とのお示しを受け、これまで推進してきた「禅の実践」「一仏兩祖への帰依」「菩薩行の実践」と共に、「菩薩行の実践としてのSDGs（エスディージーズ）への取り組み」を推進することといたします。

なることを人びとに伝えひろめます。

二、一仏兩祖を敬い、おとなえの普及につとめます。

私たちは、日々「南無釈迦牟尼仏」「南無高祖承陽大師道元禪師」「南無太祖常済大師瑩山禪師」とおとなえし、そのみ教えを学び、日々の行いに生かしていくことの大切さを伝えていきます。

三、「修証義」「四大綱領」に基づく菩薩行の実践をすすめます。

私たちは、宗門の教義である『修証義』『四大綱領』に基づき、布施・愛語・利行・同事の四摂法に代表される菩薩行の実践をすすめます。世界中の人びとの幸せと安寧を願い行動することが、自らを菩薩として成長させる大切な修行になること、更にはそれらが自らの深い喜びと安心につながることを伝えていきます。

四、人と人とのつながりを大切にしながら、全ての人が救われる関係づくりを目指します。

私たちは、寺院を場とした教化活動にとどまらず、積極的に地域社会に働きかけることで、人びとの悲しみや苦悩に学び、寄り添い、支え合い、分断のない、心が通う温かな関係を築けるようつとめます。また、仏事が簡略化されがちな世情の中で、改めて、人と人との生き死にを超えたつながりの大切さを伝え、出来る限りのご供養が営めるよう力を尽くします。

※SDGs (Sustainable Development Goals) は「持続可能な開発目標」と訳され、二〇一五年の国連サミットで加盟一九九カ国の全会一致で採択された「貧困や飢餓の解消」「平和的社会的実現」などに関連する十七の課題を、統合的・包括的に解決していこうとする国際目標です。

統監挨拶



本年一月一日新年を迎えた日、能登半島を中心に能登半島大地震が起こり、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げ、皆様にお悔やみを申し上げます。そして、被災された皆様に心よりお見舞いを申しあげます。被災された地域では現在も復旧に向けてご尽力され心身ご疲労のことと拝察致します。私たちが出来ることをご支援させていただきます、復旧復興をお祈り申し上げます。

中国管区教化センターは、昨

年開設五十周年となり、現中国管区長岩田泰成老師の発起のもと、中国管区教化センター開設五十周年記念式典と祝賀会を十一月八日に執り行わせていただきました。

慶讃法要では、曹洞宗教化部長深川典雄老師に御導師を務めて頂き、曹洞宗人事部長渡部卓史老師を初め所轄の宗務庁役員、管内の宗議会議員各老師、歴代管区長老師、管内の宗務所の所長老師並びに役員老師、全国各管区教化センターの統監老師並びに役員老師、中国管区教化センター歴代統監老師並びに役員老師、センター布教師、各事業の関係者の皆様といった管区内外の多数の出席をいただきました。

式典では、この五十年の歩み

に尽力を頂いた皆様に、功勞の表彰を曹洞宗よりさせていただきました。

又、大雄山最乗寺山主増田友厚老師に記念講演をお願いし、演題を「大慈悲心に生きられし瑩山禪師に学び 今、求められる布教教化の日常を探る」とされ、本年七百回大遠忌を向かえる太祖常済大師瑩山禪師様の大慈悲の法と布教の今後を参学させていただきました。今般この五十年事業を無事圓成することができ、安堵しましたが、五十年間布教教化を引き継いでこれら多くの皆様の道心を目の当たりにし、新たな周年に向かい弃道精進の決意を持ちました。又、支えて頂いている多くの皆様への感謝を深く思いました。

本年度も、令和六年の布教教化に関する告諭をもとに、教化

泉龍寺 住職 三島 道秀

センター事業を進めてまいります。管内の宗侶の皆様にはご理解と、ご加担をお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のご多幸とご法身堅固を祈念申し上げます。

合掌



五管区長挨拶



新年早々能登半島を中心に大地震が発生し多くの皆様が被災されましたが、謹んでお見舞いとお悔やみを申し上げます。

輪島港を始め、かつて訪れた黒島の港も海底が隆起するなどこれまで聞いたことのない地震でありました。

今、宗門、總持寺を始め全国的に募金活動が展開されていますが、宗教界においては「政教分離」の原則のもと、宗教施設は公的資金を受けることが出来ないのが現状であり、避難場所

となった寺院が行政からの支援物資を受け取ることが出来なかつた実例もあります。

身近な中国地方でも各地で多くの災害が続いてきましたが、その都度、何も出来なかつた何もしてこなかつた反省のもと宗務所等で遅ればせながら募金活動を始めたところでもあります。

さて、昨年は、教化センター、中国管区において大きな行事が続きまして。教化センターにおかれましては、開設五十周年記念式典、講演会、祝賀式が宗務庁を始め管区内外より多数の関係者参集のもと盛大に開催されましたが、五十年の足跡を振り返りながら、歴史の重みを感じ、あらためて歴代の役職員の皆様のご尽力に対し敬意を表したいと存じます。

令和六年度には、賛事の交代

が有るようですが、新体制のもと、教化センターの更なる充実、発展を願い、役職員の皆様のご活躍を祈念致します。

中国管区におきましては、瑩山禪師七〇〇回大遠忌予修法要を出雲市に於いて厳修、併せて京都清水寺森清範貫主の記念講演、並びに四年に一度の管区集会を盛会裡に開催することが出来ました。

本年は、いよいよ大遠忌正當の年ですが、五十年前の私は駒澤大学在学中でありました。島根県からの団参で参拝した師匠と本山で合流し、有難き法要に随喜出来たこと、今でも記憶に残っています。瑩山禪師さまによつて全国に教線を拡げる基盤が築かれ、伽藍の法灯、個々の法脈を受け繋げてきた法孫として足跡を慕いつつ、報恩行を勤

島根県第二宗務所所長

岩田 泰成

めて行かねばと考えているところであります。また、ご寺院、檀信徒の皆様が共に有難き勝縁を結ばれますことを切に願っております。

合掌



令和5年度 事業報告

4	24	中国管区運営協議会	松江市 ホテル白鳥 (管区事業)
4	25	前期教化活動推進委員会	松江市 ホテル白鳥 令和4年度事業報告・令和5年度事業計画(案)他
5	19	センター布教師協議会	米子市 国際ファミリープラザよりオンライン併催 布教化方針並びに教化方針伝達他
6	12	教化資料等企画制作委員会	教化センターよりオンライン開催 配信原稿の点検・校正
6	14~15	中国管区役職員等人権啓発研修会 管区人権啓発に関する協議会	フィールドワーク：旧大社基地、物資保管庫、JR段原鉄橋の銃弾痕 見学 松江市 ホテル白鳥に移動 講師 ◎駒澤大学名誉教授 石井公成 氏 講義「曹洞宗と国粹主義・日本主義の系譜～人物とその思想～」 (管区事業)
6	17	第4回 Let's try ZEN	矢掛町 洞松寺 講師 ◎洞松寺専門僧堂堂長 鈴木聖道 老師 講演「洞松寺専門僧堂について～国際布教と禅～」 参加者16名
6	20~21	教化指導員研修会	三原市エアポートホテルよりオンライン併催 講師 ◎曹洞宗総合研究センター講師 館盛寛行 老師 講義Ⅰ「仏教とは何か」～生死苦からの解脱道～ 講義Ⅱ「道元禅師の教えの特徴」～即心是佛と坐禅～ ◎中国地方臨床宗教師会代表 梶野統胤 老師 講義Ⅲ「臨床宗教師について」～苦しみの中におられる方々に宗教者が出来ること～ ◎広島県宗務所人権擁護推進主事 村田昭元 老師 人権学習「日常の振り返りから人権を考える」 受講者42名
6	29	教化センター報39号発刊	中国管区内ご寺院(約900ヶ寺)に郵送
8	29	第1回布教師養成基礎講座	山口市 玄済寺よりオンライン併催 講師 ◎山口県妙光寺住職 山縣洋典 老師 ◎山口県玄済寺住職 蔵重宏昭 老師 法話作成・実演について講義、模範実演 受講者11名
9	14~15	布教講習会・協議会	松江市ホテル白鳥よりオンライン併催 講師 ◎曹洞宗特派布教師 関水俊道 老師 講義Ⅰ「宗意に沿った仏教教理の正しい理解～法話の要となる「法」の研鑽～」 講義Ⅱ「現代社会に向けた法話のポイント」 ◎社会福祉法人つわぶき理事長 石井尚吾 氏 人権学習「発達障がいについて」 布教実演 3名 受講者67名
9	29	教化資料等企画制作委員会	教化センターよりオンライン開催 配信原稿の点検・校正
10	13	後期教化活動推進委員会	教化センターよりオンライン開催 令和5年度前期事業報告・令和6年度事業計画
10	16	婦人会中国管区研修会	広島市 ホテルガーデンパレス 講師 ◎東京都正覚寺住職 山田悠光 老師 講演『つながり響き合う心』 参加者61名 (婦人会事業)
10	26	太祖瑩山紹瑾禅師700回大遠忌 中国管区予修法要	出雲市 出雲市民会館 記念講演 ◎京都府清水寺 森清範 貫主 『こころの姿』 (管区事業)
10	26	中国管区集会	出雲市 出雲市民会館 (管区事業)
11	6	禅をきく会	米子市 米子コンベンションセンター※鳥取県宗務所檀信徒地方研修会併催 講師 ◎大雄山最乗寺山主 増田友厚 老師 講演「この時代をどう生きるか～大慈悲心の誓願に生きられし瑩山禅師～」
11	8	中国管区教化センター開設五十周年 記念式典・祝賀会	広島市 ANAクラウンプラザホテル 記念講演 ◎大雄山最乗寺山主 増田友厚 老師 『大慈悲心に生きられし瑩山禅師に学び 今、求められている布教化の日常を探る』
11	14	教化資料等企画制作委員会	教化センターよりオンライン開催 配信原稿の点検・校正
11	28~29	第2回布教師養成基礎講座	山口市 玄済寺よりオンライン併催 講師 ◎山口県妙光寺住職 山縣洋典 老師 ◎山口県玄済寺住職 蔵重宏昭 老師 法話実演・講評 受講者10名
12	16	第5回 Let's try ZEN	安来市 松源寺 講師 ◎鳥取県天徳寺住職 宮川敬之 老師 参加者26名
2	26	教化資料等企画制作委員会	教化センターよりオンライン開催 配信原稿の点検・校正
2	29	第3回布教師養成基礎講座	山口市 玄済寺よりオンライン併催 講師 ◎山口県妙光寺住職 山縣洋典 老師 ◎山口県玄済寺住職 蔵重宏昭 老師 法話再実演・全体講評 受講者7名
3	26~27	全国教化センター連絡協議会	

○ 配信法話

『今日のこころ 私のこころ』 毎週土曜日更新

文化講座

- ◎山陰中央新報文化講座 松江教室 「心安らぐ写経入門」毎月1回開催
- ◎山陰中央新報文化講座 出雲教室 「心安らぐ写経入門」毎月1回開催
- ◎米子市 chukai コムコムスクエア 「やさしい坐禅と写経入門」毎月1回開催

岡山県宗務所だより

令和五年度事業報告

教化主事 岩本 剛宗

岡山県宗務所におきましては、新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、感染対策を取りながらではありますが、積極的に行事を再開致しました。

【特派巡回布教】

五月二十九日・三十日に県南と県北を分けて、の二会場で開催。講師 川上宗勇特派布教師

【婦人会総会・研修会】

六月八日 総会後、萬福寺住職翁泰仙老師から「逆境に立つて学ぶこと」と題して講演頂きました。

【梅花流特派講習会】

六月二十四日～三十日 講師 大野道源梅花流特派師範

【寺族会研修会】

七月十日 宗務庁派遣講師関水博道老師から「ともに生きる セクシャルマイノリティー」と題して講義の後、高梁市防災復興推進課職員から「防災マップで学ぶ災害対策」についての研修を行いました。

【現職研修会】

八月二十九日 宗務所を会場に五十五名の参加を得て、大本山總持寺副監院勝田浩之老師をお招きして『永光寺聲山和尚語録に学ぶ』と題し、ご提唱頂きました。続いて宗務庁派遣講師染典典秀老師に「ともに生きる セクシャルマイノリティー」と題しての人權学習と岡山県警サイバー犯罪対策課による「サイバー犯罪の手法と被害防止対策」について研修を行いました。

【岡山県梅花流講習会】

十一月十七日 島根県地久寺榎本淳道師範をお招きし、ご指導を賜りました。

【檀信徒地方研修会】

十一月十日 新見市文化交流館において大本山總持寺単頭柴田康裕老師をお招きし、「聲山禪師のみ教えに学ぶ」と題し講演を頂きました。

【檀信徒団参・永平寺本山研修】

十一月二十七日～二十九日の日程で、八十三名の参加を得て、永平寺での本山研修に合わせ、總持寺祖院と永光寺へ参拝を致しました。久しぶりの団参で親睦を深めることが出来ました。

広島県宗務所だより

広島県宗務所行事について

教化主事 野上 厚徳

令和二年～四年までの三年間、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、諸行事の中止・縮小を余儀なくされましたが、令和五年度は久しぶりに予定した行事を全て行うことが出来ました。

六月五日～九日までは梅花流特派巡回講習会、六月十二日～二十日までは特派巡回布教・教区護持会総会が各教区単位で開催されました。特に梅花流詠讚歌はその講習を受けて、六月二十八日に四年ぶりに第五十三回広島県奉詠大会を行いました。四年のブランクは大きく、特に参加者減少が顕著でした。十月三日には檀信徒地方研修会を催し、午前中は「あなたは仏教徒ですか」と題して、大本山總持寺副貫首 盛田正孝老師によるご講演。いただいたこの生命をいかに生きるか見つけ出す、そういう時間をいただきました。午後からは、詩人・翻訳家のアサキ・ピナード氏により「知らなかったほくららの日本語」と題して、海外の方から見た日本語の意義深さ（英語はアルファベットだけが、平仮名・漢字・片仮名で構成され、それを上手に使っている等々）を、流暢な日本語で解りやすくお話し下さいました。

十月三十日～十一月一日までは大本山總持寺記念参拝に八十名で団参旅行。初日は国会議事堂で地元選出議員から堂内の説明。そして總持寺様へ参籠。夕食時は話声が聞こえていきましたが、一晩御本山の空気に触れると、明朝の小食は不思議と静かに頂くことが出来ました。二日目はお楽しみの箱根湯本温泉。ビンゴゲームにカラオケ大会。芸達者の多さにびっくり。賑やかな宴会となりました。三日目は箱根駅伝のコースをバスで登って芦ノ湖へ。そして空路帰りました。

十一月十六日～十七日は宗務所人權学習会と現職研修会。初日は人權学習と宗務庁派遣講師 宇野全智師による「ともに生きる セクシャルマイノリティー」と題しのご講演。二日目は雨宮真也法律事務所 雨宮真歩先生に「寺院経営の重要ポイントとトラブル対策」と題しのご講義と、宗報を模して「お寺の相談窓口」事前アンケートに対する応答形式の講義を賜りました。令和六年も充実した研修会を開催出来るよう、所内協力して勤めて参ります。

山口県宗務所だより

令和五年度事業報告

副所長兼教化主事 河谷 正也

世界を騒がした流行り病は徐々に終息の時期に入つてまいりまして、世間の諸行事も以前の日常に戻つて来ました。所の行持も例外ではありません。令和五年の主な事業については左記の通りです。

現職研修会（六月）は、大本山永平寺副監院西田正法老師・宗議会議員禪昌寺住職横山泰賢老師他に、ご講義頂き研鑽を深めました。

特派につきましては、布教五会場（七月）、梅花八会場（十月）、それぞれに開催されました。団体参拝（十一月）は「大本山永平寺参拝と醍醐寺参観」と称して三十七名で研修旅行を致しました。寺族会は総会（六月）において外部講師による「携帯電話を安全に使うには」という内容で研修を受けました。

婦人会では（十月）森と海の学校理事長岡村精二先生をお招きして「少女の心を失わない」と題してご講演頂きました。

令和四年度まで山口県梅花講（講長会）共催で開催しておりました「梅花流山口県大会」を「檀信徒大会・梅花流奉詠大会」（六月）と改称し、梅花講員のみならず多くの人々にご縁を繋ぎたいと致しました。太祖様の七〇〇回大遠忌予修法要を厳修し、また、神田京子師匠による「金子みすゞ伝（明るいほうへ）」の講義を皆さん楽しく聴かれました。参加者約三百五十名。令和六年は聲山禪師大遠忌にあたり、県曹青による御一代記の演劇、梅花流奉詠大会では所縁の曲をお唱えして頂く予定です。人權学習公開講座（六月）として、NPO 法人包撲「ほうぼく中間あやみ先生に「地域共生社会に向けて」と題してご講義頂きました。

山口県宗務所として、能登半島地震被災地に対し、義援金も含めた支援金を広く募り関係諸団体へ緊急支援を行うことと致しました。先ずは三月上旬に、県曹青が現地に赴き支援活動をして参りました。状況を鑑みますと継続支援となる見込みです。世間では人々が結果集ることが希薄になるのが通例化してしまつた感もありますが、この様な時だからこそ、三世十方の和合の大切さを再確認したいものです。

鳥取県宗務所だより

令和五年度事業報告

梅花主事 眞壁 太郎

五月にコロナが五類に移行し、少しずつ本来の行事が再開しつつありましたが、檀信徒が参加される行事は、やはりまだまだ慎重な行動をされているなどという印象が残りました。

年度の前半の行事は五類移行前に決定されていたということもあり、中止や縮小の傾向にありましたが、秋頃からの行事は梅花特派、檀信徒地方研修会、宗務所検定会と多くの方に参加をいただくことができました。また梅花流地方奉詠大会は、前年度はコロナ禍ということもあり、三年ぶりに半日開催で行いましたが、五年度は通常の一日開催に戻り、コロナ禍を経て講員の減少はあったものの以前のような開催ができ、参加者の方からも好評だったというお声をいただくことができました。

九月に行われました現職研修会は寺院研修会・宗務所人権学習会と併催し、人権学習の講師に日本JGFI協会代表理事の清水展人氏を迎え、「女らしく、男らしくよりも自分らしく生きる」とあなた側の性的マイノリティの人々の人権」を演題にし、現代社会における性的マイノリティについて、ご自身の経験をもとに講演していただきました。

梅花関係では、宗務所検定会が例年一月の下旬に開催されておりましたが四年度、五年度と大雪に見舞われ、いずれも延期をせざるを得なかったということもあり、次年度以降は三月に変更となる予定です。また六年度は宗務所の梅花流師範養成所が開設されないということを受け、県内での師範詠範の育成を促すための研修会をあらたに検討しているところであります。

コロナ禍を経て、少しずつ元の生活に戻ってきている部分もありますが、新たな感染症等の流行もあり、コロナ禍の経験から敏感になり、様々な行事に参加しづらい傾向はまだ続くものと思われませんが、少しでも以前のような生活に戻ることをお願いいたします。

島根県第一宗務所だより

令和五年度事業について

教化主事 岡村 充浩

令和五年度の事業は、当初よりコロナも第五類となり全て行う方向で計画をいたしました。会議等に関しては、すべて宗務所等に集まり実施いたしました。

宗侶、寺院に関する事業については、現職研修会は第五教区寺院にて九月十九日に一日開催として、上越教育大学教職大学院学校教育学系教授稲垣忠顕氏をお迎えして「一般家庭における宗教的情操の育ち」について二講義をいただきました。また、本庁指定講座として総研専任研究員館盛寛行師をお迎えして「ともに生きる セクシユアルマイノリティ」について一講義をいただきました。

宗務所寺院研修は、第一教区寺院にて一日開催とし、「臨床宗教師の視点から見た寺院と檀信徒のかかわり方」寺院としての役割」について龍雲寺住職野原眞承師に講義いただきました。また、本庁指定講座として総研専任研究員館盛寛行師をお迎えして「ともに生きる セクシユアルマイノリティ」について一講義をいただきました。人権啓発研修会は人権擁護推進事に講師を務めて頂き、「ルンタ」の視聴覚研修を致しました。檀信徒関係の事業ですが、梅花流特派講習会は、五日間五会場にて総数百三十七名の参加がありました。

檀信徒地方研修会は、第四教区寺院にて、ヨーガの先生新開春樹氏をお迎えし「安楽の法門に親しむ」として講義と実践を行いました。梅花流奉詠大会は、九十名の参加があり、半日開催として各教区の登壇奉詠を行いました。特派布教講習会は、七日間七会場にて行い総数二百八十七名の参加をもって行いました。コロナ等の感染症の影響もなくすべての事業を行うことが出来ました。又檀信徒関係の事業におきましては、檀信徒の皆様が事業の開催を大変喜ばれておられました。

令和六年度の事業については、全ての事業をこの時期にできる形、参加者の安全を第一に考慮、工夫し開催を出来るよう準備を進めております。

島根県第二宗務所だより

宗務所布教教化活動について

教化主事 西古 孝志

令和五年度は、瑩山禅師七〇〇回大遠忌をお迎えるにあたり各種研修会のテーマを瑩山禅師関連にして研鑽を深めました。

【寺院会研修会・護持会研修会】

六月六日、寺院会研修会として、徳島県満寺田村航也師に「瑩山禅師さまのやさしさとさびしさ」と題し研修を行いました。また、七月七日、護持会研修会として、同じく田村師に「『護持』の本義―瑩山禅師の置文」と題し、研修を行いました。

【現職研修会】

九月二・三日、駒澤大学名誉教授池田魯参老師をメイン講師に「伝光録」に学ぶ」と題し研修を行いました。また、宗務所梅花主事糸賀一峰師に「梅花流詠讃歌を伴う法要行事の実際」、前曹洞宗国際センター書記森香有師に「曹洞宗における女性住職育成の可能性について」と題し、研修を行いました。

【宗務所団体参拝】

六月二十七・二十九日、「沖縄慰霊と曹洞宗西有寺院真栄寺拝登の旅」を行いました。三十四名の参加者と平和記念公園で慰霊法要をおつとめし、かつて激戦が繰り広げられた地にて平和について考えさせられる旅となりました。真栄寺様では、令和四年度に行った「世界平和を願う」写仏を納経させていただきました。

【梅花流地方奉詠大会】

十一月十四日、島根県民会館中ホールにおいて七十回記念大会を開催しました。清興として、劇団「おばば座」さんに笑いの絶えない楽しい時間をいただきました。

【徒弟研修会】

三月二十九日、徒弟七名の参加のもと、ボルダリング体験を通して視覚障がい者の方々に話をさせていただきました。相互理解や人権意識の大切さを学びました。

紙上法話

その先を見据えて

鳥取県 梅翁寺住職

倉瀧 英信



新年度もスタートし、私たちの身の回りも社会生活も円滑に進んでいる頃ではないでしょうか。宗門においては太祖瑩山紹瑾禅師さま七百回大遠忌正当の大切な年となっております。「相承」の思いを踏まえ、宗侶一人ひとりが次世代にみおしえを伝えていかなければなりません。

この大切な年に弟子が安居することとなりました。私が三十年前に安居させていただいた時と比べ、準備物等にも少しづつ変わっている部分があるようです。学生生活と一八〇度変わる環境に不安しかないとありますが、傍らで見守る私自身も同様にかつての自分を見ているようで気持ちがよく理解できました。

出発する前には若い方丈さまに点検も兼ねご指導願いました。懇切丁寧な説明の中に、変わらぬこと、新たに学ばせてもらうこともありました。その方丈さまからは「自分で修行に行くと決めたのだから、やらされていると思つて行動してはならない。そのためにはしっかりと自分を律すること。」と弟子にお声かけいただきました。

『正法眼蔵随聞記』には、「学道の人は後日を待つて行道せんと思ふ事なかれ。ただ今日今時を過ぎさずして、日々時々を勤むべきなり」と示されています。道を求めていこうとするならば、今一番法縁が熟している。ここで決めた気持ちを中心に精進する、方丈さまの温かく厳しいことばに道元禅師さまから連なる一端を感じずにはいられませんでした。

今般の弟子の安居に際しては、檀信徒の皆さんにもとても温かく見守っていただき、本当に感謝しています。幼少の頃から声かけ、励ましていただきました。出発時も寒風の中、見送つて下さったことは弟子本人も生涯忘れることなく、その時の心情を将来へとつなげてくれると願っています。

瑩山禅師さまが記された『洞谷記』「当山尽未来際置文」において、

「篤信の檀那之（これ）を得る時、仏法、断ぜず」「檀那を敬うこと仏の如くすべし」

と記述があります。篤信ある方に対し仏さまのように敬い接することによって寺檀関係が深いものとなり、正伝の仏法が脈々とつながってまいります。

瑩山さまが歩まれた時代は経済面も含めご苦労が多かっただろうと想像できます。道元さまより伝えられた尊い教えを寺檀一体となって広めるべくご尽力されました。その篤い行動こそが瑩山さまの思いに共感する方の一歩となり、今日の宗門各寺院の礎を築き上げたといえます。

しかしながら現在、宗門寺院を取り巻く環境は難しい状況となり、人口減少による檀信徒減少も進んでいます。篤信ある方は貴重な存在となっております。社会が大きく変化する中において、瑩山禅師さまの置文は時代を超え、私たちに伝えようとなさっていると感じます。今一度檀信徒あるいは支援者との関わりを確認し深め、瑩山さまの思いも併せて次の五十年に向け慈恩に酬いるようつとめたいものです。

教化指導員研修会



広島県 浄久寺住職 多飯 裕慧

教化指導員研修会に 参加して

教化指導員になって初めて現地で参加をさせて頂きました。コロナ禍を経て、今回現地で参加できることを嬉しく思いました。

まず、曹洞宗総合研究センター講師の館盛寛行老師より「仏教とは何か」生死苦からの解脱道」の講義を頂きました。

講義では、生老病死の苦悩から解脱するという仏教のテーマを元に、お釈迦様の教えとは如何なるものか、また、「道元禪師様の教えの特徴」即心是仏と坐禅」と題し、道元禪師様の仏教と中国歴代祖師方の仏教を比較しながらお話を頂きました。道元禪師様の坐



館盛 寛行 老師



村田 昭元 老師

禅は「只管打坐」で、ただひたすらに坐禅に取り組まなければならぬ。しかしながら、その坐禅が「仏祖の坐禅」でなければならぬというお話が印象に残りました。「相承」という言葉のように、お釈迦様から始まり歴代仏祖の受け継いで来られた坐禅に私達は取り組まなければならぬと強く感じました。

次に人権学習では、「日常の振り返りから人権を考える」と題して、広島県宗務所人権擁護推進主事の村田昭元老師より講義を頂戴しました。

講義では、村田老師の実体験を踏まえたお話や過去にあった実際の事件などを元にお話を頂きました。「地域の方言が時代の流れと

ともに差別用語に変わってしまうことがある」「地元で普通に何気なく使っていた言葉が、地域が変われば差別用語になることがある」という実例を具体的にお話して頂きました。我々は日常の言葉遣いから気を付ける必要があると実感を持つて拝聴しました。

また、村田老師は「偏見と差別」についても述べられました。

「人は、本能的に誰しもが差別的な意識を持っており、積もった偏見を解消しなければその差別意識が溢れ出るようになる」自分の中の偏見を積もらせないためにも、正確な知識または情報を得る事が重要だと感じました。

最後の講義として、中国地方臨床宗教師会代表梶野統胤老師より「臨床宗教師について」苦しみ



梶野 統胤 老師

の中におられる方々に宗教者ができることと題してお話を頂きました。

老師は「苦しむ人たちのそばに寄り添うことを目的とし、宗教者として布教伝道勧誘を一切行わない」と臨床宗教師の説明をされました。宗教者として救済すべき人たちに對してひたすらに傾聴したり、そばに寄り添い続けるという点に驚きました。また同時に、私自身が宗教者として布教や伝道に無意識のうちに重きを置いていることを自覚させられました。布教や伝道という行為だけでなく、宗教者として生きていく上で、苦しむ人に対して傾聴したり、ただ寄り添うことも大切な実践であると知ることができました。

今回の研修会に参加して、布教化方針にある「誰一人取り残されない社会」を目指すために、私たちが宗教者が施すべき実践を確認することができました。今後の私自身の布教活動に役立てていきたいと思えます。

センター布教協議会・講習会



島根県 萬松院 住職 若槻 光哉

布教講習会に

参加して



石井 尚吾 氏

令和五年九月十四日、十五日。松江市のホテル白鳥に於いて曹洞宗中国管区教化センター主催の布教講習会に参加させていただきました。講師として神奈川県東泉寺住職、関水俊道老師、社会福祉法人つわぶき理事長、石井尚吾氏のお二人が招かれ、お話しを聞かせていただきました。

一日目は関水老師より、講義Ⅰ『宗意に沿った仏教教理の正しい理解』法話の要となる「法」の研究『鑽』、講義Ⅱ『現代社会に向けた法話のポイント』と題してご講義いただきました。

講義Ⅰはまず我々曹洞宗侶の基本となる一仏両祖の教えを深めていく内容でした。お釈迦様のお悟

り、曹洞宗の禅、道元禪師様、瑩山禪師様の禅の解釈について詳しく解説していただきました。私にはまだまだ勉強が足りてない部分でしたのでこれからも精進していかないとはいけません。

講義Ⅱは法話の作りかた、話し方、テーマの選び方など実際に法話をする際の注意点についての内容でした。現代は非常に情報が多く、また伝達も早い時代ですので単に知識や流行の言葉を披露するだけでは法話としての意味がないとのことでした。「法」を正しく伝え、相手側の感情と行動（実践行）に結びつけることが法話においては大事であると教えていただきました。

二日目は石井氏による講義、『発達障がいについて』と『布教実演・講評』でした。



関水 俊道 老師

『布教実演・講評』では私は実演をさせていただきましたが、実は今回で二回目です。前回実演したのは五年以上前で正確には覚えておりませんが、あまり上手くいかなかった記憶があります。十分に準備してきたつもりでも実際に壇上に立つと、想像以上の緊張感があります。今回は前回の反省を生かして実演させていただきました。地元の青年会等で講師をしていただく老師方がたまに言われるのが、「お坊さんの前で喋るのが一番嫌だよ」という言葉です。知識も技術も深めていけばキリがありませんが、その時にできる最善を尽くすという点では布教実演は貴重な経験であると言えます。

最後に『発達障がいについて』ですがこれは近年とても注目を集めている分野だと思っています。今回のお話は主に子供の発達障がいについてでした。私自身も三才と六才の子供がいる子育て世帯ですが、この年代の子供を育てている親御さん達は発達障がいという言葉を耳にする機会があります。また保育士の方々もよく観察して、指導方針に工夫を凝らしておられます。発達障がいを持つ子供は近年増えていると言われており、カ

ウンセリングの初診が一年以上予約待ちということも珍しくないのでした。石井氏からは実際に治療に携わっている医師の立場からの貴重なお話しを聞かせていただきました。

以上、多岐にわたる内容の二日間の講習会は非常に学びの多いものとなりました。今後も機会があれば参加させていただきたいです。



布教師養成基礎講座



山口県宗務所 直指院住職 田村 光雄

布教師養成基礎講座 の感想

この度初めて参加させて頂きましたが大変実りの多い講座でした。

その中でも特にありがたく感じた部分を書かせていただきたいと思います。

一つ目は、講師老師からのお話や他の参加者の方々の法話を聴講することができた点です。

講師の方々のお話は、法話に携わる者の心構えやこれまで蓄えてこられた御見識を惜しみなくお伝



えくございました。

また、比較的少人数の講座だからこそ、解釈に悩んでいることなどを講師老師に質問する機会をいただくことができ、ご講話と併せてこれらは非常に意義深いものとなりました。

そして、参加者の方々の御法話を拝聴する時間は、自分の見解と照らし合わせるとともに、話術や工夫、それぞれの御経験を自分の中に吸収できる稀有な時間でした。

二つ目は、十分法話を原稿とレジュメ（要項）として作成する機会を設けられた点です。私が以前参加させて頂いていた



宗務庁主催の布教師養成所でも同様の形式がとられていました。法話を頭の中で思い浮かべるだけでなく、原稿・レジュメを作成することで自分の言葉遣いや話の展開の癖が明確になりました。

私の場合は「言葉が丁寧になりすぎて話し言葉として聞き取りづらい」「同じ事の繰り返しになりがち」といったパターンが多く、「話すための原稿」としてこれらを精査していくと普段の会話にも共通する反省・改善の材料となりました。

三つ目は、それに皆様から講評をいただいた点です。私への講評は、良い点として

「話し方がハッキリとしていて聞き取りやすい」「日常的な例話で身近に感じる」などが挙げられていました。改善すべき点として「もっと祖録や経典を読み込んで理解を深めると良い」「熱量は感じるが話し方が一本調子になりがち」などを挙げていただきました。

時間をかけて作成した法話に講評をいただくことには大きな不安と恐怖心がございました。しかし、講師老師や参加者の方々から頂戴した講評には、現状でも良いと思える点や自分の強み、併せて改善すべき点を細かく示していただきました。自尊心を傷つけられる表現、法話を練るために費やした時間を否定されるような言葉は一切ありませんでした。

これは、主催者の方々を始め、携わられた方々が「同行同修」の思いで時間をともにしてくださったことの表れだと感じております。

梅花流詠讃歌『同行御和讃』にありますように「互いに励まし労わりて」という空気の中、心地良い緊張感を味わいながら自身と向き合うことができた、大変貴重な講座でございました。

禅をきく会

「禅をきく会」に参加して

鳥取県宗務所護持会会長

山口 真佐実

能登半島地震による被災者の皆様にお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方々に心よりお悔やみ申し上げます。

私の生活は、春から秋にかけては田畑の稔りのための労働あり、生活の中の雑務あり、冬は雪のたたかいが連続していて、自らを



増田 友厚 老師



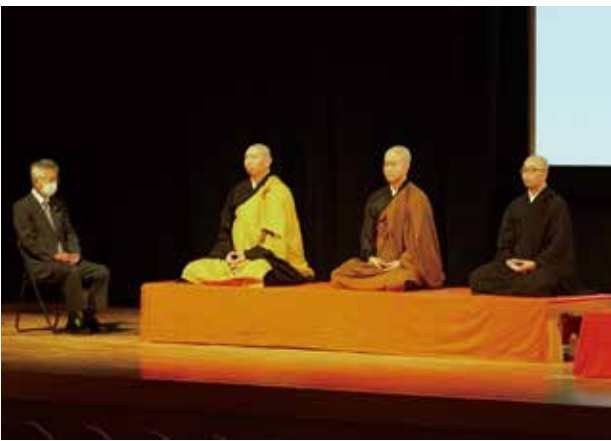
省みる機会やゆとりはありません。檀信徒地方研修会は、まとまった講話が拝聴できる唯一の機会であり、この度も期待して参加しました。此度のテーマは「大慈悲心に生ざられし瑩山禪師」で、講師は増田友厚老師でした。

瑩山禪師は能登總持寺を開山しただけでなく、門派の瑩山派は總持寺を基点として全国に布教を展開して、曹洞宗教団発展の体制をかためたことが歴史に知られています。このため總持寺は永平寺と並ぶ曹洞宗の大本山であり、今年には瑩山禪師七〇〇回大遠忌にあたり、瑩山禪師顕彰の企画について耳にすることはありますが、具体的に瑩山禪師の人となりをお聞きする機会はありませんでした。

老師のお話から、瑩山禪師の悟りは「平常心是道」であることを

知りました。「茶に逢うては茶を喫し、飯に逢うては飯を喫す」といい、「今」の時を慈念で生かし合うことであるというのです。そして慈念とは損得のない優しい心と説明されています。この行為は、相手あつての行動であり、限られた時間の中で、「今」をどう生きるかは、次の「今」がどうなるかに続きます。「生かし合う」という相互交流がそこには発展する可能性を示唆していて、人は孤独であつてはならない、常に相手に働きかけ、相手を思う心を持つというのが瑩山禪師の心かと拝聴しました。翻ってわが身をかえりみれば、何かと自己本位に陥りがちな平素の生活が浮かび、反省することばかりです。

また、老師のご講演もさること



ながら、掲示される紙が、カレンダリーの裏紙を使って居られることにも感動しました。物を粗末にしないで、使えるものは再使用されるご姿勢に、言葉にならない温かいご教示を頂きました。

この研修会で、私たちは多くの生き物の命を糧にし、多くの人に支えられて今日があることを改めて意識する機会となりました。

「慈念で生かしあう、恥じない生き方」が求められる、とのお示しは心に迫ります。そのあり方は、慢心を戒め、「聞く」「声をかける」「持つ」「親切を受ける」などの他者に寄り添う形によって成就することに気づかされました。これからの日々の生活の中で、忘れまいと思いつつ、会場を後にしました。



Let's try ZEN in 洞松寺 の所感

洞松寺専門僧堂 尚事
原田 良浩

中国管区教化センター主催の「レッツトライ禅」が初めて洞松寺にて行われました。当日は県内・県外からの参加者の方が集まりましたがその殆どの方が洞松寺に初めて来たという方、また坐禅も初めてだという方もいらっしやいました。プログラムの始めに三島道秀統監老師より坐禅指導がありました。（合掌・叉手、入堂、隣位問訊・対坐問訊、結跏趺坐・半跏趺坐、法界定印、上体の姿勢、口の閉じ方、半眼、欠気一



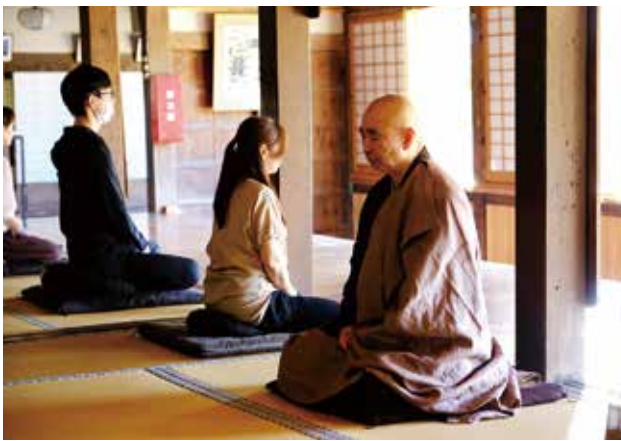
鈴木 聖道 老師

息、左右揺振、心意識と念想観の停止）等について実演されました。参加者の方も真剣に聞いていらっしやいました。一柱目の坐禅が始まりました。人数が多いため坐禅堂ではなく法堂での坐禅となりました。参加者の方の間に外国人の修行僧が入り法堂一周に一緒に坐る姿は大変貴重な光景に映ると同時に世界が一体になる（一味同心の姿）姿に感じられ胸を打たれる思いでありました。もちろん皆さまがそれぞれの思いで参加され坐られている訳ですが坐禅というものがその思いを超越させる力があると感じる時でありました。

一柱目の坐禅の後に鈴木聖道堂頭老師の講演がありました。「十五年前に洞松寺にきた時には伽藍

が荒れており坐禅堂の屋根には穴が開いていて天井にはコウモリが住んでいたからコウモリと一緒に坐禅をしていました。毎日坐禅をしていたらそのうちコウモリは居なくなりしました。その後も坐禅をしていくと一人二人と坐禅者が増えていきそして様々な方の支援と協力を得て伽藍も修復され僧堂となりました。今では日本全国そして世界各国から多くの修行僧が禅の教えを求めここへ集まってきております。ここで修行した者が法を信心としてそれぞれのお国に帰って禅の花を咲かせていただきましたという思いです。」

講演後、坐禅二柱を行いそして茶話会が開かれました。参加者の日本人の方へ外国人修行僧が抹茶



茶話会の様子

を点てお持ちする姿もここ洞松寺ならではの光景であり微笑ましく感じられました。外国人修行僧の自己紹介の時間では出身国がアメリカ・ヨーロッパ・オーストラリア・南米と多岐に渡ることに、特にブラジル人の修行僧が多いことに驚かれました。日本の真裏からおよそ二十五時間飛行機に乗ってやってきています。それほど「禅の教え」が世界各国に広がっていることに感心されています。

この度の「レッツトライ禅」を通して参加者の方と共に私も新たに「禅」について気づくことがあり勉強の場となりました。教化センターの皆様にもお世話になり有難うございました。

第5回 Let's try ZEN

開催して

松源寺 住職

佐瀬 宏洋

令和五年十二月十六日土曜日十
三時から十六時半まで鳥根県安来
市松源寺にて、講師に鳥取市天徳
寺ご住職宮川敬之老師を迎え、曹
洞宗中国管区教化センター主催に
て第五回 Let's Try Zen が開催さ
れました。

十二月の中甸とのこともあり、
天候が心配でしたが気温もそれほ
ど寒くもなく安心いたしました。
松源寺で初めて開催されること
もあり、様子が分からなかったの



茶話会の様子

ですが、松源寺では昔から坐禅
会、日曜子ども坐禅会、そして、
夏休みには五泊六日で子ども緑陰
学級という禅の修行をメインにし
た合宿を三十年近く行って来まし
た。そんなノウハウの延長で行え
ばいいかと思いました。しかし、
そんな活動を盛んにして来た松源
寺でしたが、昨今の寺離れや宗教
に対する考えも変わってきている
中で、どれくらいの方が興味を持
ってもらえるかも心配してしまし
たが、三十名の参加者が鳥根県外
からもお越しいただき安心いたし
ました。

老若男女の集まりですので、足
の不自由な方もいらつしやり、三
分の二位の方は椅子坐禅になりま
したが、一生懸命に坐禅に向かわ
れている姿はとても美しく見えま
した。



修行は一人で行うと大変な気持
ちになりますが、大勢の人と一緒に
行うと不思議と違う気持ちで出
来てしまう気がしました。

現代では坐禅の他にもマインド
フルネスという瞑想も話題になっ
ていました。色々な方に坐禅につ
いて聞かれることも多々ありまし
た。中にはアロマのお店をしてい
る方から、アロマと坐禅でコラボ
をして、何か出来ないかと相談さ
れました。白檀系の香りやリラッ
クス効果のある香りを作って、そ
の香りの中で坐禅を組んだりしま
した。線香を使えない場所での坐
禅会にも活用できると感じまし
た。一般の方々が、どんな形でも
いいから興味を持っていただくこ



宮川 敬之 老師

とが、第一歩なのかもしれない
に。そのアロマの方にも今回の会
に参加していただきました。中々
無い機会でしたので、講師老師の
坐禅に対する心構えや坐禅の仕方
呼吸や坐禅中の思考など聞いて、
いい体験をさせてもらったと感想
を言って、また機会があったら案
内をしてほしいと帰られました。

昨今の世界情勢の不安や生活習
慣の激しい変化により、心の安住
を求める人が増えたのかもしれま
せん。この度の坐禅会を通して、
そのようなことを感じました。

曹洞宗婦人会中国管区研修会

岡山県宗務所婦人会評議員 武 典子

美しい心のふれあい

中国管区婦人会では脱退が相次ぎ、今は現存する岡山と山口の二つの宗務所婦人会が交替で担当して研修会を開催しています。その上コロナ禍にみまわれ、令和二年度は開催を見送り、三年度は岡山県宗務所で規模を縮小して開催して、その様子をDVD化して配布しました。四年度は山口県宗務所を会場にオンラインとDVD化併用での開催となりました。

日常が少しずつ動き始めた五年度は、各宗務所婦人会で相談し、中国管区教化センターと評議員とで会議を重ねて、中間地点でもあり、交通の便の良い広島市の広島ガーデンパレスを会場に両方の婦人会員さんが集っての開催となりました。

研修は東京の正覚寺ご住職の山田悠光老師に「つながり響き合う心」の演題で講演をしていただきました。老師はカトリックのクララ園のシスターの身から、仏教に改宗し、愛知専門尼僧堂の青山俊董堂長老師の元で出家得度して、アメリカ、ドイツ、フランスの禅センターで修行を積まれた後に駒



山田 悠光 老師

澤大学、大学院で学ばれたという特異な経歴を持たれています。令和五年五月、宗務所での曹洞宗婦人会で講師を引き受けて下さったのが山田老師でした。お話もさることながら明るく朗らかなお人柄や慈悲心溢れる美しさに魅了され、是非とも中国管区婦人会にもお招きしたいと評議員の意見が一致して講師を依頼した経緯があります。この度もご自身の経験や人との出会いやご縁についてお話になりました。

今回は、久し振りに両婦人会が対面できたので、親睦をメインに開催しました。

山田老師の講演の後は昼食を共にしながら、岡山県婦人会主催のビンゴ大会を行いました。岡山県

産のマスカットを一等とし、以下も岡山銘菓や特産品、各寺院婦人会の手作り品などが並びました。数字が発表される度に歓声や悲鳴があり、大騒ぎしながらも和やかで楽しいひとときを過ごすことができました。

人数こそ過去の開催には及びませんが、初めてお会いする方、お久しぶりの方と、笑顔あふれる会になりました。

今回は岡山県が担当県ということで、山口の会員様へのお土産として、SDGs研修でペットボトルの蓋を使った可愛いマグネットを作りました。こうして婦人会活動は各お寺から宗務所へ、そして中国管区、全国へと繋がっていき



ます。交流を通して学び合い教え合い婦人会のスローガンでもある「美しい心のふれあい」を実現します。地域の過疎化や高齢化、寺離れなどで婦人会そのものの存続も危うくなっておりますが、互いに知恵を出し合って、その時に正しいと思う道を選んで行きたいと思っております。



中国管区教化センター 開設五十周年を迎えて

前主監 瀬田 啓道



令和五年十一月八日、広島市ANAクラウンプラザホテル広島を会場に曹洞宗中国管区教化センター開設五十周年記念式典・祝賀会を、管内御寺院様と関係各位約百名のご臨席を賜り開催致しました。

まず初めに曹洞宗宗務庁教化部長、深川典雄老師にご導師を賜り慶讃法要及び中国管区布教功労物故者追善供養を厳修いたしました。

続いて管内の布教教化のためにご尽力いただきました二十八名・一社功労者の方々への表彰を執り行い曹洞宗より表彰状を、中国管区より記念品をそれぞれ贈呈致しました。

記念講演では、神奈川県南足柄市大雄山最乗寺山主 増田友厚老師に「大慈悲心に生きられし瑩山禪師に学び、今、求められる布教教化の日常を探る」の演題のもと、ご講演



いただきました。瑩山禪師様の誓願を基に詳しくご教示いただき、瑩山禪師様がそのご生涯を通して示された慈悲心について、ご老師の明解なことばと共に伝わる大変意義深い講演でした。

その後、会場を移し祝賀会を開催致しました。ヴァイオリンとハープの演奏の中、盛大にそして和やかに執り行いました。

五十年前の開設当時、教化の在り方について協議を重ねられ、教化センター事業が発足し今日の事業に継承されていることへの思いやご労苦を、教化センターに関わられた諸老師のお話から改めて感じさせていただきました。

五十周年の節目を迎える慶びとともに、その意義を深める記念式典・祝賀会となりました。



功 労 者 名 簿 (平成二十五年より)

前教化センター事務所 広島県 天寧寺様

歴代管区長

島根県第一 妙義寺 永見勝徳老師

山口県 亨徳寺 荒木玄修老師

広島県 宗光寺 垣井龍顕老師

岡山県 金蔵寺 酒井晃道老師

鳥取県 覚圓寺 澤田宗博老師

歴代センター布教師

岡山県 萬福寺 翁 泰仙老師

広島県 中興寺 野口祥善老師

広島県 少林寺 峯岡俊徳老師

山口県 運西寺 坂上興道老師

山口県 仁平寺 田中大道老師

鳥取県 長徳寺 河谷正也老師

鳥取県 安国寺 森下慈孝老師

鳥取県 正明寺 白澤和敬老師

島根県第一 西善寺 小川裕史老師

訂心寺 木村芳典老師

歴代センター布教師 島根県第二 弘長寺 森田裕光老師

正禪寺 吉長裕教老師

歴代センター役職員 広島県 聖光寺 田中哲彦老師

鳥取県 国分寺 長尾武士老師

鳥取県 傳燈寺 和田光史老師

広島県 禅昌寺 横山泰賢老師

広島県 西林寺 野上厚徳老師

島根県第二 長見寺 藤島義信老師

広島県 吉祥寺 檀上一祥老師

岡山県 観音寺 藤尾純也老師

教化資料等企画制作委員フリーアナウンサー 中司弘子様

ラジオディレクター 前田泰宏様

株式会社中国放送様

功労者の皆様におかれましては、教化センター事業の推進に御協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。今後も引き続き御指導賜りますれば幸いに存じます。

令和5年度 配信法話「今日のこころ 私のこころ」

回数	放送日	県市町名	寺院名	担当者(敬称略)	タイトル
757	4月1日	岡山県 総社市	正眼寺 住職	土本 公祥	命のきずな
758	4月8日	広島県 庄原市	浄久寺 住職	多飯 裕慧	日々是好日
759	4月15日	山口県 山口市	多聞寺 住職	佐々木 大観	今を修行する
760	4月22日	島根県 松江市	宗淵寺 檀信徒	金本 和夫	お経を丸暗記してみたら
761	4月29日	岡山県 浅口市	禪光寺 徒弟	飯田 利行	由来と意味
762	5月6日	山口県 山口市	禅昌寺 住職	町田 大智	一日一日を
763	5月13日	島根県 鹿足郡	宝泉寺 住職	鎌田 道裕	受け入れる
764	5月20日	山口県 萩市	全柳寺 住職	山本 昌男	あなたの声が親孝行
765	5月27日	鳥取県 日南町	常福寺 住職	井上 紀生	報恩の行い
766	6月3日	広島県 庄原市	萬福寺 住職	高橋 道英	すばらしい道具
767	6月10日	島根県 松江市	洞光寺 徒弟	諏訪 弘史	寄り添うこと
768	6月17日	岡山県 高梁市	定林寺 寺族	東海林 裕美	出逢えたことに感謝
769	6月24日	島根県 浜田市	訂心寺 住職	木村 芳典	縁起している世界
770	7月1日	鳥取県 鳥取市	雲昌寺 住職	北山 悟月	やさしい気持ちで
771	7月8日	島根県 松江市	正禅寺 住職	吉長 裕教	幸せの海に生きる
772	7月15日	山口県 周南市	瑞龍寺 住職	野坂 直道	誰かのお手本に
773	7月22日	広島県 広島市	海雲寺 住職	小川 彰紀	足元を見ましよう
774	7月29日	山口県 玖珂郡	安禅寺 住職	村上 邦明	言葉がくれる勇氣
775	8月5日	鳥取県 米子市	梅翁寺 住職	倉瀧 英信	一生修行
776	8月12日	島根県 浜田市	瑠璃寺 住職	島田 建眞	頂きます
777	8月19日	岡山県 高梁市	観泉寺 副住職	金地 宏典	欲求と向き合う
778	8月26日	広島県 世羅郡	鳳林寺 住職	原田 良浩	愛語の力
779	9月2日	山口県 周南市	安国寺 副住職	本多 隆晃	視点を変えてみる
780	9月9日	広島県 庄原市	萬福寺 住職	高橋 道英	牛と人との地域と
781	9月16日	山口県 下松市	妙光寺 住職	山縣 洋典	あるお檀家の話
782	9月23日	鳥取県 鳥取市	正壽寺 住職	山脇 俊英	真夏に有り難き施し物
783	9月30日	山口県 山口市	妙喜寺 住職	市原 晃靖	日々の生活の中で
784	10月7日	鳥取県 米子市	雲龍寺 住職	眞壁 太朗	残したい風習
785	10月14日	山口県 玖珂郡	安禅寺 住職	村上 邦明	与えて、与えられてのひととの繋がり
786	10月21日	岡山県 新見市	光源寺 住職	多飯 皓成	愛語とは
787	10月28日	鳥取県 日野町	泉龍寺 住職	三島 道秀	舞台は宝石箱
788	11月4日	島根県 安来市	松源寺 住職	佐瀬 宏洋	真直ぐなものの見方
789	11月11日	広島県 神石郡	寶泉寺 住職	野村 俊英	「つらいとき」お寺にお参りしてみませんか
790	11月18日	島根県 安来市	慈照院 住職	佐瀬 悠真	喜心を胸に
791	11月25日	島根県 松江市	舜叟寺 住職	西古 孝志	コップの水
792	12月2日	島根県 松江市	正禅寺 住職	吉長 裕教	五年の歳月が生んだもの
793	12月9日	鳥取県 西伯郡	円福寺 副住職	家森 俊孝	ありがとう
794	12月16日	山口県 周南市	瑞龍寺 住職	野坂 直道	深い呼吸
795	12月23日	岡山県 新見市	光源寺 住職	多飯 皓成	柄杓の底から学ぶ
796	12月30日	島根県 安来市	長見寺 住職	藤島 義信	一番愛おしいもの
797	1月6日	島根県 松江市	宗淵寺 寺族	板倉 千代	「同じ」を繰り返す
798	1月13日	鳥取県 米子市	梅翁寺 住職	倉瀧 英信	おかげさまで生きる
799	1月20日	山口県 山口市	廣澤寺 住職	土田 裕明	自らを律する
800	1月27日	鳥取県 日南町	徳雲寺 住職	西村 伸也	かけがえのない人
801	2月3日	島根県 津和野町	宝泉寺 住職	鎌田 道裕	報恩の心
802	2月10日	島根県 出雲市	文珠院 住職	渡部 亮学	ご縁と感謝
803	2月17日	島根県 松江市	松源寺 住職	佐瀬 宏洋	雑草との共存に学ぶ
804	2月24日	鳥取県 北栄町	大廣寺 副住職	宮川 善永	食べ物は誰かの思いやりで出来ている
805	3月2日	山口県 周南市	華嚴寺 住職	磯部 誠司	失敗の中にも光明を
806	3月9日	鳥取県 北栄町	観音寺 住職	吉本 修峰	春は花
807	3月16日	鳥取県 北栄町	大廣寺 副住職	宮川 善永	人と人との間に生まれる温かみ
808	3月23日	広島県 庄原市	萬福寺 住職	高橋 道英	うちのミエコ先生
809	3月30日	鳥取県 琴浦町	清元院 住職	井上 英之	慈悲のバトン

曹洞宗配信法話

「今日のこころ 私のこころ」

配信法話集

2023年度版

《令和5年4月～令和6年3月》 52話収録

今日のこころ、私のこころ

Today's heart, my heart

法話集

2023年版



ご希望の方は

曹洞宗中国管区教化センターまで

お申し込みください。

お知らせ

センター布教協議会・講習会

- 日 時：令和6年9月26日～27日
- 会 場：島根浜田ワシントンホテルプラザ
- 講 師：元曹洞宗特派布教師
相原 昇明 老師
- 参加費：15,000円（予定）
- 対 象：布教師・宗門僧侶
- 申込先：各宗務所
- お問い合わせ先：教化センター

中国管区センター布教師・宗務所布教師のご紹介

No.	役職	寺院名	氏 名(敬称略)	〒	住 所
岡山県宗務所	センター布教師	吉祥寺	土本 公祥	714-1203	岡山県小田郡矢掛町上高末 4050
	宗務所布教師	長安寺副	久保 泰道	708-0045	津山市西寺町 52
広島県宗務所	センター布教師	萬福寺	高橋 道英	727-0003	広島県庄原市是松町 227
	宗務所布教師	東光寺	松岡 真誠	723-0003	三原市中之町 1-11-35
		鳳林寺	原田 良浩	729-3307	世羅郡世羅町伊尾 597
山口県宗務所	センター布教師	安禅寺	村上 邦明	740-0061	山口県玖珂郡和木町和木 1-6-18
	宗務所布教師	龍福寺	林 達哉	753-0093	山口市大殿大路 119
		廣福寺	土田 裕明	753-0851	山口市黒川 1483
		西宗寺	西村 和茂	747-0232	山口市徳地伊賀地 882
		真福寺副	大野 泰生	746-0062	周南市福川中市町 6-7
		華嚴寺	磯部 誠司	746-0012	周南市政所 1-16-16
		欣慶寺副	野坂 正道	742-0033	柳井市新庄 2630
		周慶寺	斎藤 周三	759-3611	萩市大井 3243
直指院	田村 光雄	742-1107	熊毛郡平生町曾根 2330		
鳥取県宗務所	センター布教師	梅翁寺	倉瀧 英信	683-0006	米子市車尾 5-7-50
	宗務所布教師	天徳寺	宮川 敬之	680-0007	鳥取市湯所町 1-709
		長通寺	磯江 紹元	680-0144	鳥取市国府町岡益 285
		清元院	井上 英之	689-2522	東伯郡琴浦町宮木 57
島根県第一宗務所	宗務所布教師	長久寺	樋谷 雅豊	695-0023	島根県江津市二宮町神村 1725-8
		妙義寺	永見 宏樹	698-0017	島根県益田市七尾町 1-40
		西光寺	萩野 慈隆	699-5616	島根県鹿足郡津和野町部栄 411
島根県第二宗務所	センター布教師	松源寺	佐瀬 宏洋	692-0011	島根県安来市安来町 1446
	宗務所布教師	永昌寺	門脇 直哉	692-0212	島根県安来市伯太町西母里 78
		長見寺	藤島 義信	692-0206	島根県安来市伯太町安田 960

令和6年度事業計画

行 事	期 日	会 場	主催
中国管区運営協議会	4月25日(木)午後	島根県松江市 ホテル白鳥	管区
教化活動推進委員会(前期)	4月26日(金)午前	同上	センタ
教化資料等企画制作委員会(第1回)	5月15日(水)	オンライン	センタ
教化センター布教師協議会	5月16日(木)	広島県三次市みよしまちづくりセンター	センタ
教化指導員研修会	5月29日(水)～30日(木)	浜田市 ワシントンホテルプラザ	センタ
教化センター報第40号発刊	6月下旬		センタ
Let'stryZEN～坐禅をしてみませんか?～	6月15日(土)	山口県山口市 長徳寺	センタ
曹洞宗婦人会中国管区役員会	7月5日(金)	オンライン	婦人会
禅をきく会	7月10日(水)	島根県第二宗務所管内	センタ
教化資料等企画制作委員会(第2回)	8月 日()	オンライン	センタ
布教師養成基礎講座Ⅰ	8月29日(木)	鳥取県米子市 總泉寺	センタ
教化センター布教協議会・講習会	9月26日(木)～27日(金)	島根県第一宗務所管内	センタ
教化活動推進委員会(後期)	10月 日()	オンライン	センタ
婦人会中国管区研修会	10月16日(水)	山口県山口市 セントコア山口	婦人会
中曹青鳥取大会	11月5日(火)	鳥取県宗務所管内	青年会
布教師養成基礎講座Ⅱ	12月3日(火)～4日(水)	鳥取県米子市 總泉寺	センタ
教化資料等企画制作委員会(第3回)	12月 日()	オンライン	センタ
Let'stryZEN～坐禅をしてみませんか?～	2月11日(火・祝)	鳥取市 天徳寺	センタ
教化活動企画委員会	2月 日()	未定	センタ
布教師養成基礎講座Ⅲ	3月6日(木)	鳥取県米子市 總泉寺	センタ
管区教化センター前期連絡協議会	3月 日()	宗務庁	宗務庁

教化事業予定

配信法話	毎週土曜日更新	YouTube・Podcast・テレホン法話
文化講座	毎月1回	米子市 Chukai コムコムスクエア
文化講座	毎月各1回	山陰中央新報文化センター 松江教室・出雲教室

■センター役職員

	統 監	三島道秀	泉龍寺	〒689-5131 鳥取県日野郡日野町黒坂421	☎(0859)74-0140
	主 監	井上紀生	常福寺	〒689-5224 鳥取県日野郡日南町多里471-1	☎(0859)84-0310
	賛 事	曾根慎吾	玉雲寺副	〒699-1434 島根県仁多郡奥出雲町佐白404	☎(0854)54-1536
	賛 事	藤原玄光	観音寺徒	〒692-0731 島根県安来市広瀬町西比田1758	☎(0854)34-0033

主監 井上紀生 拝

この度の能登地方を震源とする令和6年能登半島地震によって、お亡くなりになられた方々のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。また、被災された皆様、心からお見舞い申し上げます。

管区内ご寺院様には平素より格別なるご高配を賜り心より御礼申し上げます。お蔭様で、中国管区教化センター開設50周年記念事業は、「記念誌 道」・「今日のこころ 私のこころ法話集」の発刊をもちまして無事円成と相成りました。改めて厚く御礼申し上げます。

これまで関係御老師方が築いてこられた信頼と足跡を道標としながら、時代に即した教化活動を模索し布教教化に精進して参ります。今後教化センターに対し、御指導・御道愛を賜りますよう、伏してお願ひ申し上げます。

編集後記

使用済みろうそく回収事業

令和4年度より新たに、SDGsや循環型社会への移行を支援する試みのひとつとして、使用済みろうそく回収事業を行っております。

令和5年度は延べ36社・2ヶ寺の皆様にご協力いただき、550kg超の使用済みろうそくが集まり、管内内外の特定営利活動法人様等へ寄贈させていただきますました。ご協力誠にありがとうございました。